

# 2023年3月期 第2四半期 決算説明会



サンケン電気株式会社

2022年11月7日

- 第2四半期業績
- 通期業績予想
- 21中計／サンケンコア

## 第 2 四半期業績

## 2022年度 第2四半期決算のポイント

- 上期の売上高は1,060億円、前期比+195億円 (+23%)  
上期公表値に対して+120億円 (+13%)
- デバイス売上は、上期公表値に対して+112億円 (+12%)
  - ・車 +66億円 (+14%)
  - ・白物 + 3億円 (+ 1%)
  - ・産機・民生 +43億円 (+26%)
- 営業利益は82億円、前期比+17億円 (+27%)  
内訳は、サンケンコア18億円、米国事業80億円、  
連結調整他▲16億円。

1Qの一過性費用として、米国事業にアレグロの前CEO退任による  
株式報酬費用34億円を含む。

# 2022年度 第2四半期 連結業績

(億円)

	21年度			22年度			上期 前年比		上期 5月公表値比	
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期	金額	%	金額	%
売上高	443	421	864	496	<b>563</b>	<b>1,060</b>	+195	+22.6	+120	+12.7
デバイス	421	407	828	483	<b>545</b>	<b>1,027</b>	+199	+24.1	+112	+12.3
旧ユニット	13	14	27	14	<b>19</b>	<b>32</b>	+5	+17.8	+7	+29.1
旧社会システム	9	-	9	-	-	-	-	-	-	-
営業利益	32	32	64	9	<b>73</b>	<b>82</b>	+17	+27.1	-3	-3.6
経常利益	31	30	61	12	<b>72</b>	<b>84</b>	+23	+37.3	+4	+5.0
当期純利益	8	11	20	2	<b>28</b>	<b>30</b>	+10	+50.9	+8	+34.3

為替レート/US\$

109.82

134.05

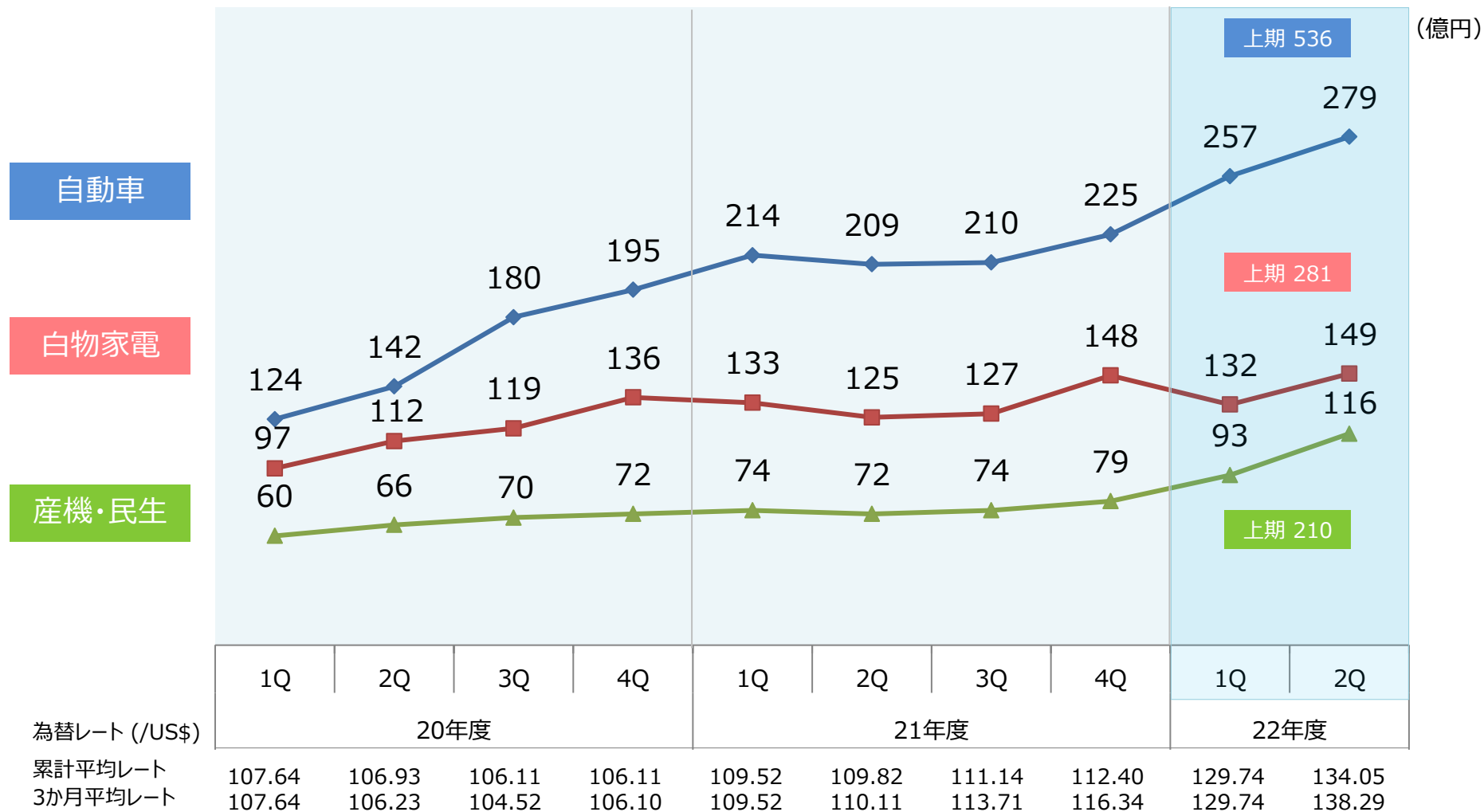
※比率は百万円単位の数値から算出

営業費用：1Q アレグロの前CEO退任による株式報酬費用で34億円（一過性）

法人税等：法人税 16億円、アレグロ等の非支配株主持分 36億円

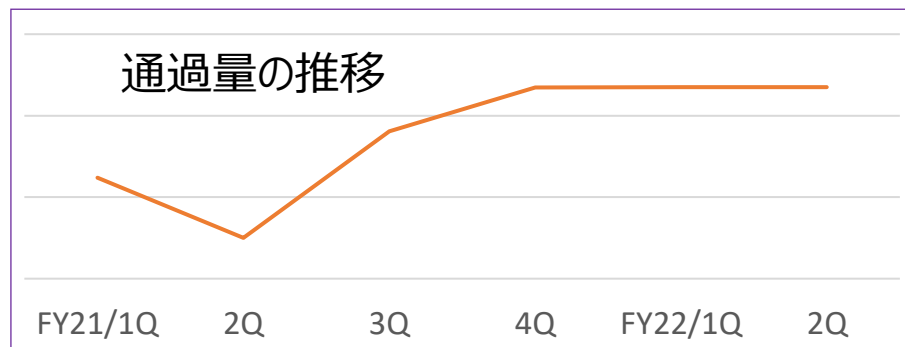
# 市場別 デバイス連結売上高 四半期推移

上期 前年比 デバイス計 +24% (自動車 +27% 白物家電 +9% 産機・民生 +43%)



## ◇上期の状況

通過量は、前期がコロナ影響で生産効率が低下、2Qをボトムにボトルネック工程と生産ミックスを改善させて回復するも、稼働水準は前期4Qと同レベルであり、能力は目一杯の状況。



## ◇下期の見通し

今期損益の回復は非常に厳しい状況と言わざるを得ない。設備の早期導入・立ち上げに全力投球し、来期の収益改善を目指す。

### <課題>

- |       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 1) 調達 | 設備面（数ヶ月遅れ、半導体不足）、部材面（保守部品・補助材） |
| 2) 生産 | 生産ミックス変化への対応                   |
| 3) 雇用 | メンテナンス技術者の不足                   |
| 4) 設備 | 故障時のリカバリ時間長期化                  |

## ◇将来に向けた施策

従来通りブレークイーブンを目指すための工程改善を行うとともに、抜本的な能力増強に向けた選択肢も検討している。これには多額の資金調達が必要であり、そのひとつの方法として米国チップス法（補助金）を活用した計画を立案している。

# ■ アレグロ製品の日本販売について

## ◇ 商流変更の概要

- アレグロ社製品の日本地区における販売窓口の変更  
変更前：アレグロ→サンケン→日本顧客      変更後：アレグロ→商社→日本顧客
- 本移管の規模（22年3月期基準）

	連結	移管対象
売上高	1,757 億円	166 億円

## ◇ 背景

- アレグロ社製品の日本市場における販売は、当社が歴史的に築いてきた優良な顧客基盤を活用することで、販売面でのシナジー効果を創出。
- サンケンコアとアレグロコアそれぞれの製品開発・販売責任を明確化することが最適と判断。  
(サンケン製品の欧米販売は既にアレグロより商流変更済み)

## ◇ 協業体制の変容

- 今後の協業体制は、技術部門を核として、両社の得意分野を組み合わせた製品の開発及び共同マーケティングなどに中心を移し、従来にも増して強化して行く。
- 技術協業に関しては、アレグロ新経営陣とも合意し、具体策の検討を開始している。

なお、本件に伴い、当社が保有するアレグロ株式の保有比率に変更はありません。



# 2022年度 業績予想

## 当社から見える景色～市況の変化

- 自動車市場のサプライチェーンは混乱状況。顧客・用途・製品により、「**継続する出荷要請**」と「**納期延伸の要請**」という逆ベクトルが同時発生。
- 白物市場は、世界的な景気減速の影響、及び中国ゼロコロナ政策により22年度は計画比で伸び悩む想定。
- 長期リードタイムの確定受注は徐々に減少し、積み重なった納期遅れ注残も解消に向かうと想定。

## 当社から見える景色～環境の変化

- 為替レートの見直し（期初公表値115円⇒今回140円/USD）
- 円安効果により期初公表値を上回る収益を見込んでおり、業績予想は大きく上方修正を行う事とした。
- 一方、円安は想定を超える材料費と電力料金の高騰の要因ともなっており、利益を圧迫する状況。対応策構築が急務。

# 2022年度 通期 連結業績予想

(億円)

	21年度			22年度 5月予想 期初公表値			22年度 11月予想			前期比		5月予想比 期初公表値比	
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期	金額	%	金額	%
売上高	864	892	1,757	940	960	1,900	<b>1,060</b>	<b>1,160</b>	<b>2,220</b>	+463	+26.4	+320	+16.8
デバイス	828	863	1,691	915	935	1,850	<b>1,027</b>	<b>1,133</b>	<b>2,160</b>	+469	+27.7	+310	+16.8
旧ユニット	27	30	57	25	25	50	<b>32</b>	<b>28</b>	<b>60</b>	+3	+5.2	+10	+20.0
営業利益	64	73	137	85	125	210	<b>82</b>	<b>153</b>	<b>235</b>	+98	+71.3	+25	+11.9
経常利益	61	76	137	80	120	200	<b>84</b>	<b>146</b>	<b>230</b>	+93	+67.9	+30	+15.0
当期純利益	20	12	32	22	45	67	<b>30</b>	<b>50</b>	<b>80</b>	+48	+149.7	+13	+19.4

為替レート/US\$

112.40円

115円

**140円 (下期)**

※前期比率は百万円単位の数値から算出

# デバイス市場別コメント

## 自動車市場

### <市場環境>

- 2022年の世界生産見通しは、半導体不足や地政学リスクにより83M台まで減少。2023年は、最新見通しで85M台と微増に留まる想定。これらOEM動向により各Tier1の生産・調達計画も更なる変化を予想。
- 車載半導体に対する需要は、xEV、自動運転、ADAS等の伸長により今後も増加基調が継続する。

### <当社を取り巻く環境>

- 不足感が継続している顧客と引き取り調整に入った顧客が混在する複雑な状況にあり、各顧客との情報共有を更に密接に行う必要あり。
- 積み重なった注残に対し、生産ミックスの見直しや増産効果により出荷は順次改善しており、今期の売上は伸長する見込み。
- 一方、受注においては、従来に比べ長納期の手配はひと段落しており、過剰手配の状態が見直されつつある。

## 白物家電市場

### <市場環境>

- 世界的な景気減速の影響を受け、好調であった白物家電の販売量は減少傾向に転じ、調整局面が当面は続くとみている。
- 中国各社は、ゼロコロナ政策もあり、年間生産計画を見直す状況にある。韓国各社の主要仕向け地は欧米であり、インフレの影響を色濃く受けている。
- 中長期の視点では、白物家電に対する省エネ改善要求は更に厳しくなり、その実現にはインバータ化、DCモータ化が必須である。

### <当社を取り巻く環境>

- 中国エアコン大手のインバータ機年間生産計画は、段階的に引き下げられ前年を下回る見込み。通常ピークシーズンに向け増加する1-3月期の部品取り込みは、今期は伸び悩む事を想定。（10-12月期と同レベルを予想）
- 6月から始まった韓国洗濯機大手の生産調整も当面継続する見込み。
- 新モデル開発における、当社パワー半導体に対する引合は引き続き強い。

## 産機市場

### <既存用途>

- 引き続きデータセンター向けの需要は堅調。

### <新規用途>

- 業務用空調やFA機器に対するパワーモジュール製品の拡販は順調。半導体不足の状況下、出荷前倒し要求が強くなり各顧客と協議中。
- クリーンエネルギー用途での新規採用も進んでいる。

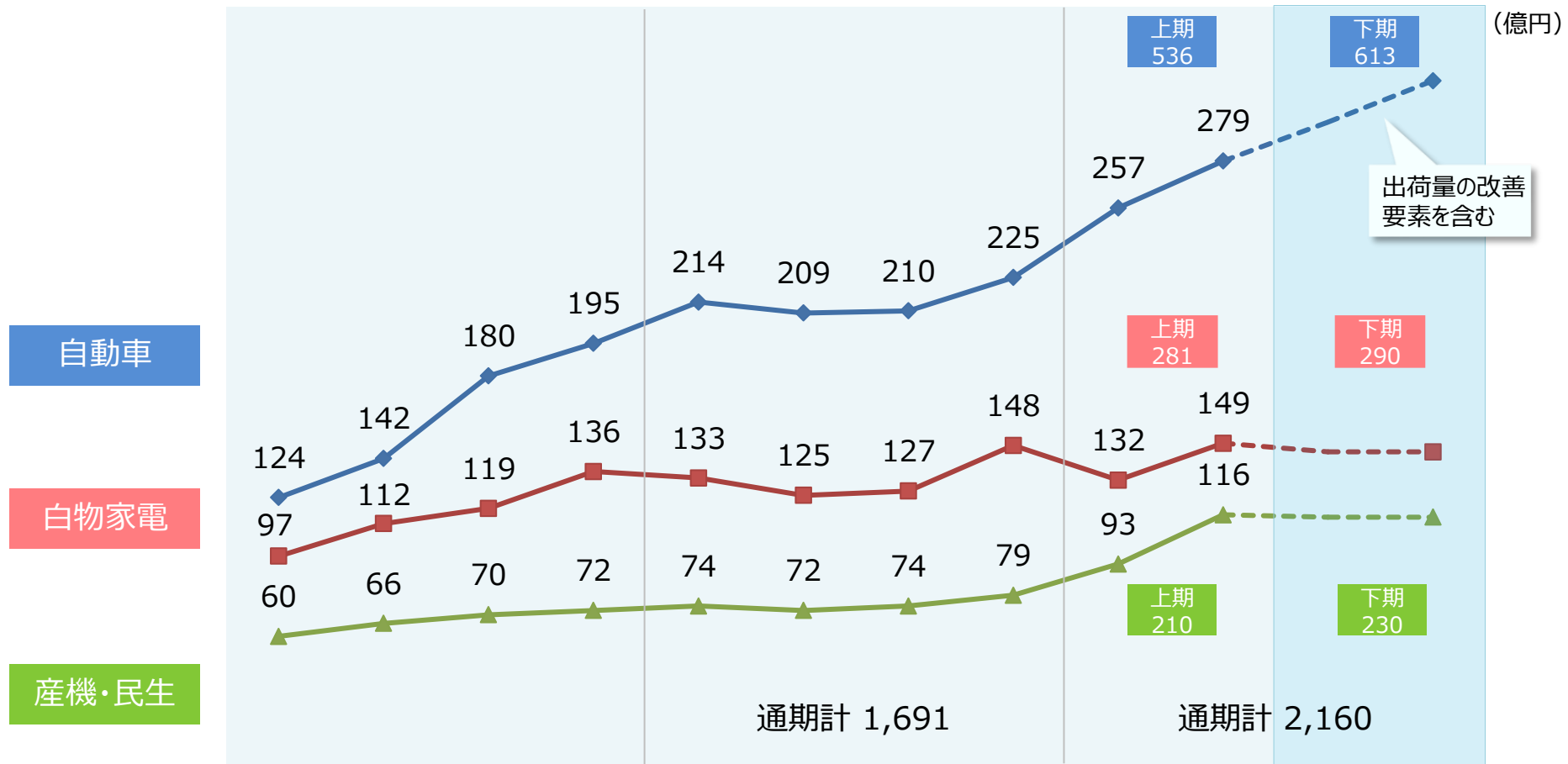
## 民生市場

### <TV市場>

- 巣ごもり需要からの反動減により、ワールドカップ特需も期待値に届かず、各社は計画を大きく見直している。
- 当社製品の主要用途である大型ハイエンドモデルの需要も一服感あり。各顧客（韓国、台湾、中国）の新年度生産計画の精査を進める。

# 市場別 デバイス連結売上高 四半期推移

下期予想 上期比 デバイス計+10% (自動車 +14% 白物家電 +3% 産機・民生 +10%)



	20年度				21年度				22年度 (予)			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
為替レート (/US\$)	107.64	106.93	106.11	106.11	109.52	109.82	111.14	112.40	129.74	134.05		
累計平均レート	107.64	106.23	104.52	106.10	109.52	110.11	113.71	116.34	129.74	138.29	下期平均	140
3か月平均レート	107.64	106.23	104.52	106.10	109.52	110.11	113.71	116.34	129.74	138.29	下期平均	140

21中計／サンケンコア



# 21中計進捗 前半振り返り (21.4月~22.9月)

## 成長戦略実現に向けた基盤構築

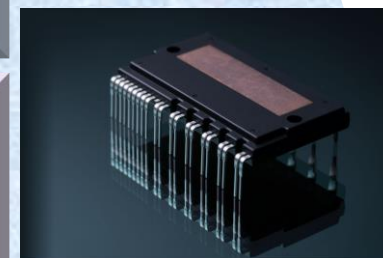
### 構造改革

- 生産拠点再編  
石川モジュール専用工場新設  
国内2工場閉鎖
- 社会システム事業譲渡完了  
デバイス事業に一本化



### 開発戦略

- プラットフォーム開発 (SPP) 進行  
新パワーモジュール・パッケージ開発
- EVトラクションモータ用パワーモジュール  
2021年度4Q~ 出荷開始



### 生産戦略





- 本社ものづくり開発センター本格稼働  
匠の技をパイロットラインに集結・展開
- スマートファクトリー構想の実現 (DX推進)  
石川モジュール工場を皮切りに全社展開



# 21中計進捗 前半振り返り（21.4月～22.9月）

## 計画実現（サンケンコア復活）に向けた進捗状況

利益に対し影響を与える主要ドライバー

要素	売上高 新製品比率	開発品粗利率	コスト (材料、電気代等)
計画	15%以上	22%以上	down 
進捗	14% (22/上実績)	条件クリア	Up 
評価	比率Up中 	SPP製品効果 	✓ 想定以上のコスト増 ✓ 新たな変化要因発生

- 21中計前半については、課題はあるが概ね計画線上で推移
- 新たな利益圧迫要因に対する挽回策の構築が急務  
⇒ 中計後半における成果の刈り取り実現へ向けた活動を更に強化する

# 21中計進捗 後半展望 (22.10月~24.3月)

計画実現 (サンケンコア復活) に向けて

21中計後半  
2022/2H~2023年

24中計  
2024~2027年

内部要因

新製品比率

15%-20%

パワーモジュール製品を  
中心に量産供給開始

コスト

上昇抑制策構築

生産省エネ化推進  
低価格部材へ置換

市況変化

悪化リスク増大

xEV/ICE需要精査  
白物WW動向確認

為替レート

歴史的な変動状況

為替リスク最小化

レジリエンスの強化

- ・変化を予測
- ・想定外への対応
- ・代替案の準備
- ・リスク管理

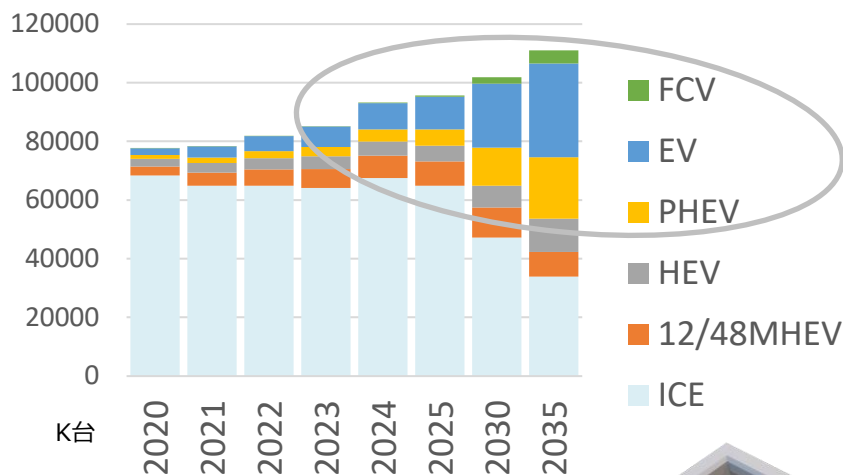
外部要因

内部要因に対する管理強化・外部要因に対する対応策構築  
サンケンコア利益拡大による企業価値向上の実現

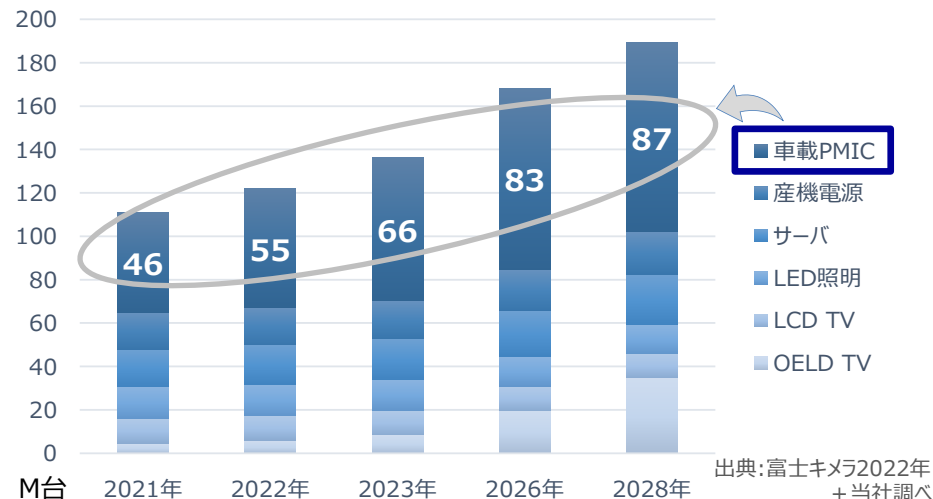
# サンケンコア成長戦略 市場動向

## ■ xEV市場拡大

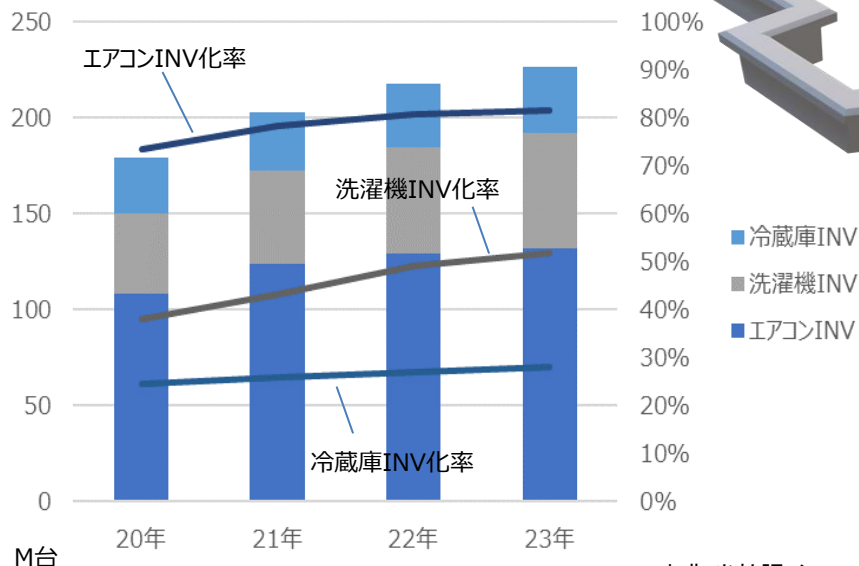
出典:富士キメラ2022年 + Bloomberg



## ■ 車載PMIC潜在需要 (含むデジタルIC主要市場)



## ■ 白物 インバータ化進捗



成長市場を  
ターゲットに！

リソースを  
さらに集中！

# ■ サンケンコア成長戦略 パワーモジュール

## EVトラクションモータ用パワーモジュール最新状況

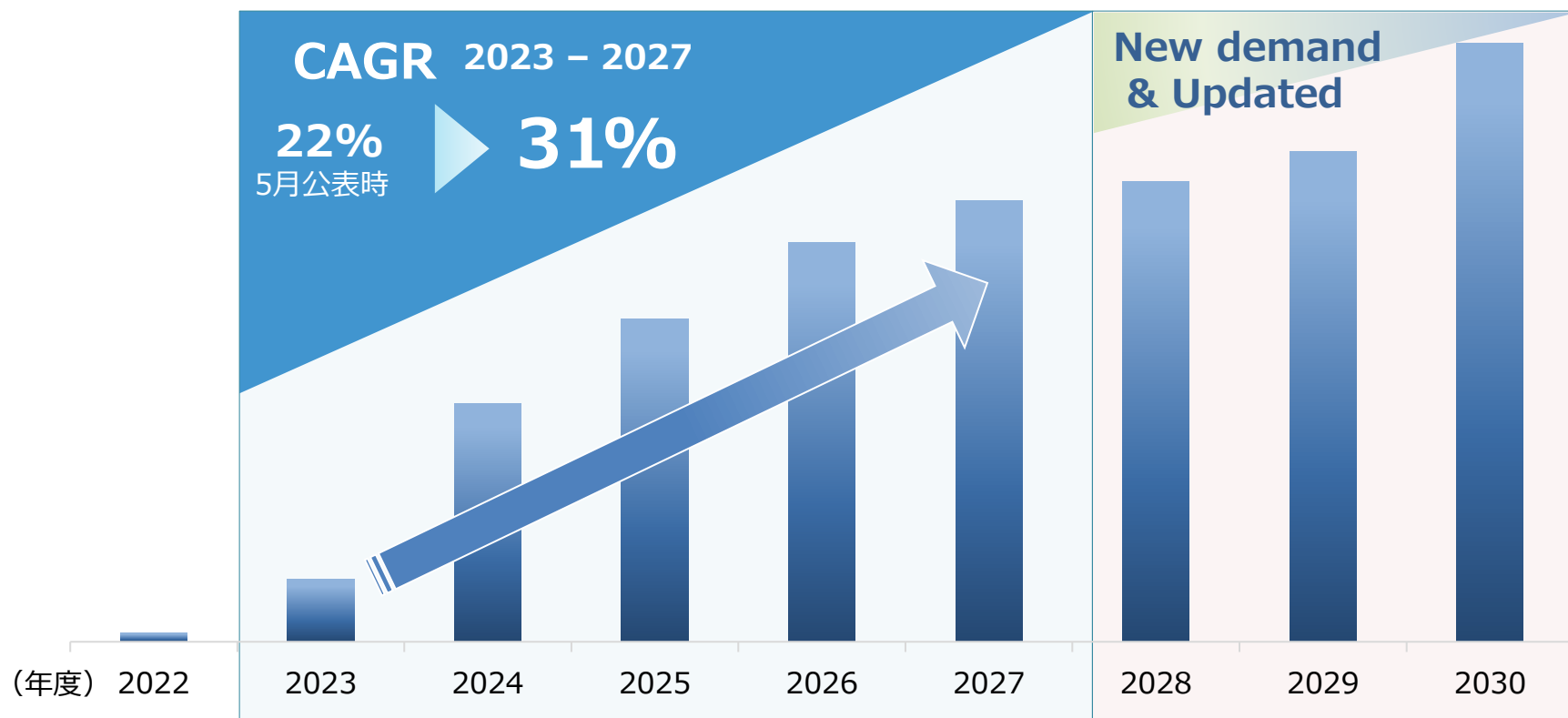
- 中長期の追加投資に関して顧客との協議を継続中

2027年までの需要が増加

- ・当初計画の再見直し
- ・採用モデルの拡大

2028年以降の計画提示

- ・更なる拡大見込み
- ・増産体制 具体化検討開始



<最新数量見通し>

## デジタルIC ～ 多様化する電源要求へ応える “Digital Solution”



### システム高度化

電源回路の難易度が上昇



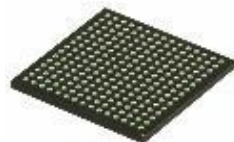
### デジタル技術

最適ソリューションを提供



#### 車載市場

●用途：ADAS/自動運転



●市場変化：

・AIプロセッサの性能向上に伴い  
**電源回路の複雑化**

#### 民生市場・産機市場

●用途：OLED TV・LED照明・サーバ

●市場変化：

・**ErP指令対応（エコデザイン要求）**

Energy-related Products指令：欧州連合のエネルギー関連製品指令

・基板の小型化、薄型化

#### デジタルDC/DC MD68xx

システムごとに最適な電源を提供  
電源の高度化・高信頼化を実現

#### デジタルAC/DC MD67xx

アナログには出来ない高効率化対応  
低ノイズ制御による部品点数削減

**最適な電源制御(独自開発マイコン EPU内蔵)※1 / GUIによる顧客開発リードタイム短縮※2**

※1 EPU : Event Processing Unit ※2 GUI : Graphical User Interface

2021

2022

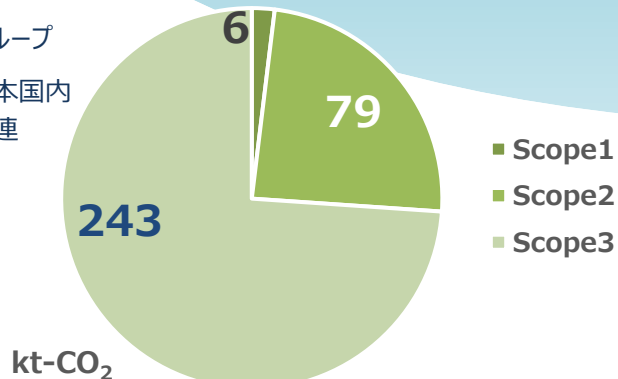
2023

テーマ	推進項目	具体的内容
環境 Environment	気候変動への取組み カーボンニュートラル 基本方針の策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネ生産設備への更新 原単位での削減管理</li> <li>オンサイトPPA※導入、オフサイトPPA検討</li> <li>CO<sub>2</sub>排出量削減目標を見定め、22年度中に開示予定</li> </ul>
社会 Social	働きやすさへの価値創造 健康経営 人権尊重・労働環境向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康経営優良法人2022(4年連続選定)</li> <li>ノンスモキングカンパニーの推進</li> <li>安全衛生、ダイバーシティ、働き方改革の推進</li> </ul>
ガバナンス Governance	コーポレートガバナンス 経営の透明性確保 ダイバーシティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESG担当役員を任命しサステナビリティ委員会を主催</li> <li>ダイバーシティに造詣の深い女性弁護士を社外取締役候補者に選任</li> </ul>

<サンケンESG経営/2022主要テーマ> 22/5説明会資料より

## TCFD開示情報(22/10)

サンケングループ  
対象：日本国内  
大連



2020年 CO<sub>2</sub>排出量

## GHG (温室効果ガス) 中長期排出削減目標

**基準年** : 2020年  
**目標年** : 2030年  
**対象** : Scope 1 & 2  
**目標値** : 33%削減

⇒ 2050年目標: カーボンニュートラル (含むScope3)

## 『サンケンデジタルビジョン』制定による経営に直接寄与するデジタル変革を実現

### スマートファクトリを軸にしたビジネスプロセスの変革

- 生産ライン
- ・省人化ライン開発
  - ・SPPライン開発

DX

- 品質
- ・トレーサビリティ管理
  - ・クレーム撲滅

- 品質
- ・不良低減
  - ・予知予防

DX

- 生産ライン
- ・生産性向上
  - ・省人化



ものづくり開発センター  
Mesシステム

- ・生産データ
- ・工場データ
- ・工程履歴
- ・環境データ
- ・開発データ
- ・原価データ
- ペーパーレス



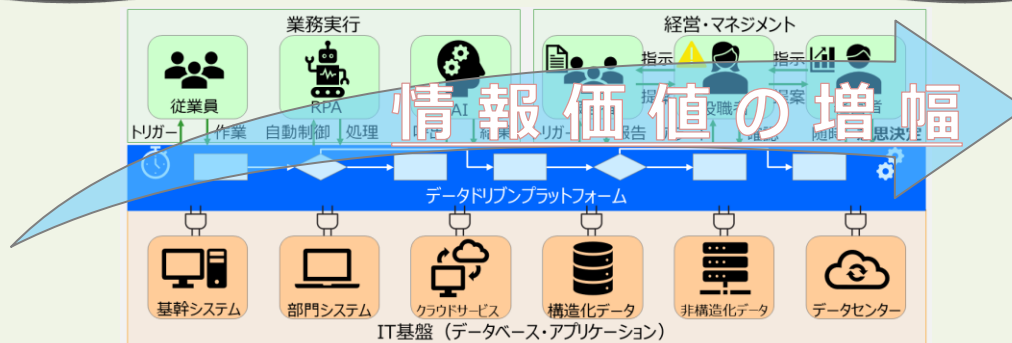
生産工場  
生産ラインシステム

- 施設
- ・エネルギー
  - ・環境対応

連携

- ものづくり/技術
- ・データ解析ライン設計
  - ・新製品開発展開
  - ・革新ライン開発展開

- 技術/製造
- ・データ解析、分析
  - ・原価低減、工程改善
  - ・履歴調査





開発改革

生産戦略

**Power Electronics  
for Your Innovation**

独自性のある技術、  
人と組織のパフォーマンスで成長し、  
社会のイノベーションに貢献する

高収益企業の実現

ESG経営

DX推進

サンケン電気/経営ビジョン



2023年3月期 第2四半期 決算説明会

## 製品別売上（連結）

（億円）

	2021年度								2022年度							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	比率	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	比率
パワーモジュール	109	100	209	100	113	213	423	24%	111	132	243					23%
パワーデバイス	193	181	374	187	212	399	773	44%	207	250	457					43%
センサー	132	140	272	137	142	280	552	31%	178	182	360					34%
その他(社会システム)	9	0	9	0	0	0	9	0%	0	0	0					0%
計	443	421	864	425	467	892	1,757	100%	496	563	1,060					100%

## 市場別売上（連結）

（億円）

	2021年度								2022年度							
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	比率	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	比率
自動車	218	214	433	215	231	446	879	50%	262	285	547					52%
白物家電	133	125	258	127	148	275	534	30%	132	149	281					27%
産機	69	68	138	70	73	144	281	16%	87	114	201					19%
民生他	13	13	27	12	15	27	54	3%	16	14	30					3%
その他(社会システム)	9	0	9	0	0	0	9	0%	0	0	0					0%
計	443	421	864	425	467	892	1,757	100%	496	563	1,060					100%

※「決算補足資料」は当社Webサイトの [IRライブラリ 決算説明会資料](#) をご覧ください。

## 参考リンク

- [サンケン電気 コーポレートサイト](#)
サンケン電気の公式Webサイトです。
- [サンケン電気 公式YouTubeアカウント](#)
会社紹介、製品情報をはじめ、当社の様々な取組みを動画でご紹介しています。

## 将来に関する記述についての注意事項

この資料に記載されている当社及び当社グループに関する業績見通し、計画、方針、戦略、目標、予定、判断、認識などのうち既に確定した事実でない記述は、将来に関する記述です。これら将来に関する記述は、現時点で入手可能な情報と合理的と判断する前提を基礎として作成したものであり、既知または未知のリスク、不確実性、その他の要因を含んでいます。従って、実際の業績は、これらのリスク、不確実性、その他の要因により、業績見通しと大きく異なる可能性があります。また、当社は、適用法令の要件に服する場合を除き、業績見通しの見直しを含め、将来に関する記述を更新あるいは修正して公表する義務を負うものではありません。

当社が属するエレクトロニクス業界は、常に急激な変化に晒されていますが、当社の業績や財産に重大な影響を与えるリスク、不確実性、その他の要因には、(1) 経済環境、市場・需給動向、競争状態、(2) 為替レートの変動、(3) 技術進化への追従の成否、(4) 原材料の高騰あるいは調達難、(5) 各国・地域における法制度の変更あるいは社会情勢の急変、(6) 偶発事象の発生などがありますが、これらに限定されるものではありません。